ISEノードのタイムゾーンの変更方法

内容

問題

ISEノードで設定されているタイムゾーンが正しくないため、更新する必要があります。

環境

- Identity Services Engine(ISE)バージョン3.1以降
- スタンドアロン/ハイブリッド/分散型のISE導入
- ポリシー管理ノード(PAN)

解決方法


警告：このプロセスでは、変更を適用するために、影響を受けるISEノードのサービスを再起動する必要があります。


注：シスコでは、導入環境のすべてのCisco ISEノードで同じタイムゾーンを使用するように設定することを推奨します。これは、異なるノードからのレポートとログのタイムスタンプが同期していることを確認するためです。

1. PAN自動フェールオーバーが有効になっている場合は、これを無効にします。

1.1：スーパー管理者権限を持つアカウントを使用して、ISEプライマリPANグラフィカルユーザインターフェイス(GUI)にログインします。

1.2. Administration > System > Deployment > PAN Fail overの順に選択します。

1.3.「PAN自動フェールオーバーを有効にする」チェックボックスをオフにします。

1.4.「保存」をクリックします。



2. 管理者権限を持つアカウントを使用して、該当するISEノードのコマンドラインインターフェイス(CLI)にログインします。

3. このコマンドを使用して、使用可能なすべてのタイムゾーンを一覧表示し、適切なタイムゾーンを指定します。

```
show timezones
```

4. このコマンドを入力して、コンフィギュレーションモードに入ります。

```
configure terminal
```

5. 次のコマンドを使用して、指定したタイムゾーンを設定します。

```
clock timezone <timezone>
```

たとえば、

```
clock timezone UTC
```

6. プロンプトで「yes」と入力し、タイムゾーンの変更を確認して、必要なISEサービスの再起動を開始します。

7. ISEノードサービスが再起動し、GUIにアクセスできるようになるまで待ちます。

8. 「exit」と入力して設定モードを終了してから、このコマンドを実行してタイムゾーンの変更を確認します。出力には、更新されたタイムゾーンの現在の時刻が表示されます。

```
show clock
```

9. 必要に応じて、プライマリPAN GUIでPAN自動フェールオーバーを再度有効にします。

原因

ISEノードのタイムゾーンがインストール中に誤って設定されました。

関連コンテンツ

- PAN自動フェールオーバー設定。
- ISE CLIリファレンスガイド

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。